

1. はじめに

キリスト教信仰は、イエス・キリストへの信仰を通しての救いを私たちに約束しています。人間は自分の力で救われるのではなく、私たちの罪のために十字架にかかり復活なさった御子イエス・キリストの故に救われるのです。それが福音の約束です。

実は、そのような福音の約束の前提となることがあります。それが創世記1章1節の御言葉が教えていること、すなわち「初めに、神は天地を創造された」という出来事です。「創造する」(バーラー)という言葉は、真の神による創造行為を表す特別な言葉です。また、「天地」はこの世界全体、宇宙全体を表しています。つまり、聖書が教える真の神は救済者であると同時に、天地万物の創造者であるということです。

2. 創造主である神の存在

神が天地万物の創造主であるということは、創造主である神だけが永遠から存在しておられる唯一の方であり、この世界、宇宙のすべての物は神の被造物であるということです(詩編8:4、104:24、エレミヤ10:12)。神はすべての物をご自分の言葉によって、無から創造なさったのです(詩編33:6、ヘブライ11:3)。このような考えを「キリスト教有神論」と言います。単に神がいると信じるのが「有神論」ではありません。

例えば、日本の神道では人間も死んだら神とされ、神社に祭られることがあります。また、「山の神」、「海の神」という信仰に表されているように、自然も神格化され、宗教的信仰の対象とされます。このような宗教観のことを「汎神論」と言います。そこではこの世界と神が混同され、神と世界の区別が曖昧になります。

もう一方で、天地万物を創造なさった神を否定し、この世界や万物は神と無関係に自然に存在しているという宗教観があります。それを「無神論」と言います。しかし、神の天地創造を否定すると、この世界は全く偶然に存在するようになったとい

うことになり、この世界の存在意味そのものが失われてしまいます。また、結果的に、神無きこの世界そのものが神のようになってしまいます。

聖書は「汎神論」も「無神論」も両方とも正しくないと教えています。この世界は被造物であり決して神ではありませんが、同時に神の創造と無関係に自分の力で存在しているのでもありません。神の無からの創造こそが、天地万物の存在の根拠です。したがって、神が天地万物を無から創造してくださったというキリスト教有神論こそ、私たちキリスト者の宗教的前提となる世界観です。

3. 神が創造主であることの意義

神が天地万物を無から創造なさった創造主であるということは、私たちの信仰に二つの点で大きな意義を与えます。

第一は、神の救いの目的は単に私たちの心を罪から救うことだけではなく、この世界全体の回復であるという点です。神が天地万物の創造主である以上、救いは造られた物すべてに及びます。そうである以上、私たちの救いは単に自分の救いということに留まりません。つまり、人間の救いはこの世界全体の救いと深く結びついているということです。パウロがローマ8章19～22節で語っているように、すべての被造物もまた、神の子たちの現れるのを待ち望んでいるのです。私たちは創造主なる神を信じる時、自分の救いの意味と目的を正しく知ることができるのです(創世記1:28)。

第二には、神が天地万物の創造者であるからこそ、私たちはどんな時にも救いを確信できるという点です。神が創造主であるということは、この世界の中には神の物でない領域はどこにもないということです。だからこそ神はご自分の創造なさった人間とこの世界を完全に救うことができます。私たちは創造主なる神を信じる時、自分と世界の完全な救いを確信することができるのです。

神は創造主であるからこそ、造られた物がすべて神をたたえ、賛美することを望んでおられるのです(詩編96:1、103:22、145:10)。(弓矢健児)

テキスト 創世記 1章1～5節
カテキズム 子どもカテキズム 問11, 12

〔単元のねらい〕

いよいよ、救済史カリキュラムが始まります。今号、所収の「救済史カリキュラムのために」をぜひ、熟読してください。今朝は、聖書の1ページ、その第一声を共に聴き、学びます。創世記の著者は、自分たちが信じ崇め従っている神とは、天地を創造された力ある神、すべての「はじめ」、あらゆる存在の原因、いのちの根源でいらっしゃるのだと高らかに宣言します。本年は、創世記を軸に、カリキュラムを整えました。それは、ウェストミンスター信仰告白の「聖定」の教理と深く共鳴しています。永遠の愛の計画をもって、私たちに命を与え、お救いくださる神を信じ、誇りとし喜びとして生きる人の幸いを語り、讃美と礼拝をささげましょう。

「神さまがいなければ、世界はない」

今朝から、子どもの教会は新しくなります。これまででは説教や分級で、「子どもカテキズム」を一つひとつ取り上げて学んできました。ですから、聖書を開くのは、順序がバラバラでした。でも、今朝からは、順番に聖書を開いて行くこととなります。旧約聖書から始まって新約聖書へと読み進めて行きます。聖書を通して語られる神さまの声を、楽しみに聴いていきましょう。

聖書は66巻で一つの本になっています。この66冊は、順序だてて並べてありますね。聖書は、確かに、どこから読んでもかまいません。マタイによる福音書からでもいいわけです。でも、やっぱりいつか並んである順序に従って読むと、一番、神さまが僕たち私たちに伝えようとしていることが、すっきりとわかるようになりますと先生は思います。旧約聖書をずーっと読んで、いよいよ新約聖書のマタイによる福音書を開くと、感動しますよ。それは、神さまがご自分のことを紹介してくださる方法は、いきなり神さまの全部をどーんと教えてくださるのではなくて、私たちに合わせて、一步一步、繰り返して繰り返して、丁寧に、よくわかるようにしてくださるのです。

今朝から二年間、そのようにコツコツと皆と一っしょに聖書を学んで、イエスさまを礼拝し、神さまのことを知って行きたいと思います。先生

も、とても楽しみです。

さて、今、聖書の最初のページを開いて、神さまのみことばを聴きました。今日の暗唱聖句ですから、もう一度、読みましょう「初めに、神は天地を創造された」。

いきなりすごい言葉です。天地とは、天と地、つまり世界ということです。宇宙と言ってもよいです。僕たち私たち、すべての生き物が生きている場所は、神さまによって造られたのです。場所のことを空間と言ったりします。宇宙空間という言葉もあります。どこまでも果てしなく広がる宇宙、ある学者の先生は、今も広がり続けているとか言います。その宇宙は神さまの作品。そして、それは、いつ始まったのか、誰も分かりません。でも、その始まりは、神さま、始められたのは神さまです。つまり、時間も神さまが造られたわけですね。空間も時間も、僕たち私たちのように生きとし生けるもの、生きている物がここに生きていられるために、絶対に必要なありとあらゆるものは、神さまによって造られたのです。すべての始まり、それは、神さまというわけです。それは、つまり、すべて在るもの、命が有るものをずーっとずーっとさかのぼって行くことができるとすれば、神さまにたどりつくということでしょう。

先生がここにいる。皆さんがここにいる。それは、神さまがいらっしゃるからです。神さまが、深い愛のご計画をもって、僕たち私たちを生まれさせ、ここに置かれている……。もしも、神さまがいらっしゃるなければ、僕たち私たちも、天と地球も、いっさいがっさい何にもないということです。神さまがすべてのすべて、中心の中心……なのです。皆さんにお話ししながら、先生は、感動します。

たとえば、地球や宇宙のお話をちょっとしてみます。神さまのおかげで、太陽は地球にとってちょうどよい位置に置かれているわけです。そして、太陽のまわりを、ちょうどよいように傾きながら、地球はぐるぐる回っているわけですね。そして、地球の上で生きているすべての生き物のために、一日一回転。ほんのちょっとでも、太陽に近づきすぎても、離れすぎても、傾きが傾きすぎても、生き物は生きられないのだそうですよ。もう、地球がいま、こうしてあることを知れば知るほど、それはもう奇跡！ としかおもえなくなるそうです。先生は、天体の専門家ではありませんが、ちょっとだけ教えてもらっても、なるほど奇跡だと思います。そして、ああ、やっぱり！ と思うのです。つまり、聖書に書いてある通りだなと思うのです。神さまが、お造りくださったのだから、完璧、狂いもなく、間違いもなく、スゴイことになっているのです。

ようするに、神さまは、一番偉いお方っていうことです。だったら、この宇宙や地球に住んでいる僕たち私たちが、この神さまのことを無視したら、そんなに愚かで、悪いことはないと思いませんか。

明治時代のとても優れた教育者に新島襄という人がいました。同志社大学をつくった人として有名です。この先生は、まだ鎖国をしていたときに、

アメリカで勉強したいと思って船に乗りました。その船の上で、「初めに、神は天地を創造された」という聖書の言葉を読んで、神さまを信じる決心をしたそうです。新島先生は、船に揺られながら、きっと怖かったと思うのです。江戸時代のことで、アメリカに行くことは法律を破ることで、死刑になるかもしれません。なによりも、まだキリスト教を信じる人は殺されてしまうような法律があった時代です。もう、日本に戻れないかもしれないのです。でも、聖書を読んで、この天地を造られた神さまがいらっしゃると思った時、信じられたとき、ものすごい勇気がわいたのだと思います。神さまが共にいてくだされば、こわいものはない。心配しないで、一生懸命、勉強しよう。神さまがなんとかしてくださるさ。こんな思いで、アメリカに渡ったのだと思います。

この新島先生がアメリカの大学で学んだのは、科学でした。先ほど、太陽と地球のお話をしました。天地を造られた神さまがいらっしゃるから、地球は完璧にすばらしい環境にあるわけです。きっと、新島先生は、神さまを信じたからこそ、もう迷信なんて信じない、占いなんてやらないし、たよらない。科学の勉強が楽しくなったのではないかと思うのです。神さまを信じたからこそ、そんな考え方ができるようになったのだと思うのです。

皆さんは今、この御言葉に感動していますか。先生は、この神さまがいらっしゃる事がどんなにすばらしいかと思います。安心して生きていけるからです。つらいことにも悲しいことにも負けないで生きていけるのは、この神さまが共にいらっしゃるからです。そして、この神さまだから、イエスさまをお墓の中から復活させることもできるわけです。 (相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句] 創世記 1章1節

初めに、神は天地を創造された。

ねらい：神様が天と地のすべてのものづくり主と知る。

視覚教材：暗闇の絵、光の絵

【お話の前に】

こども達にアクションをしてもらいながらする。

みんなしっかりと目を閉じてみて!! 夜のよう
に暗いね。

では目を開けてよく見て!! とても明るいね
窓の外空を見てみてごらん!! 天(空)が
遠くに見えるね

周りを見て、地面をみて!! 私たちが座って
いるところが地ですね。

【お話】

昔々 ずっと昔、この世のはじめには、神様だけ
がおられました。神様はいつもそこにおられま
した。

周りには何も無い、でもすでに神様はそこにお
られました。

初めに人間はいませんでした。でも神様がおら
れました。

初めに木/車/教会/犬(子供たちにとって身
近なものを言いながら)はいませんでした。ただ
神様だけがおられました。

(聖書を見せながら) 聖書にも初めがありました
。(創世記1:1)を開けて、聖書の一番最初のお
話は創世記といいます。みんな一緒に創世記と
言ってみましょう。創世記は「初めに」という意

味です。そこには何が書いてあると思う?(子供
たちの答えを聞いて)、こう書いています。初め
に天と地と創造された。空のある天と土のある地
を作られました。

地には何にもありませんでした。そこは真っ暗
で、深い水ですべての物がおおわれて、何も生き
ることはできませんでした。そして神様はいわれ
ました。光あれ。そして光ができました。

神さまは光を見て、よくできたと言われました。
神様は光と暗闇(まっくら何も見えない世界)に
分けられました。そして光を昼と呼び、闇を夜と
呼ばれました。

夕方になり、朝になりました。そして第一日目
が終わりました。

【工作】

4/23、4/30の3回に分けて天地創造の絵本を作
成する。

A4の用紙に1から7の数字をコピーする。A4横
で二文字ずつ。



1と4は(黒画用紙又は白の紙に)黒字でコピー、
その他の数字は白抜きでコピーする。1から7の
字の周りをハサミで切り取る。切る作業が難しい
場合は、親もしくは教師が援助。1の上側に光と
なる黄色や白色の紙を貼ってもらう。今回は1だ
けを仕上げる。

幼稚科の工夫① ～視覚教材～

幼稚科のこども達の理解を助けるために視覚教材はとても大切です。紙芝居や絵を描くのも良いですが、パワーポイントは簡単にインターネットから画像を入れられ、編集も保存も容易です。プロジェクターだけでなく、テレビにもつなげられ、とても便利。画像はインターネットで、画像の名前、イラストと入れて検索するとスムーズです。

創世記1:1~5をよみましょう。

1. 天地がつくられるまえに、だれがいましたか？

2. 天地がつくられるまえは、なにかありましたか？

3. だいい日になにがつくられましたか？

4. どんなほうほうで、つくられましたか？

5. かみさまは、光とやみをなんとよばれましたか？

6. 光は、わたしたちにとってどんなものですか？

創世記1:1~5を読みましょう。

1. 天地創造の前に存在したのは誰ですか？
2. 天地創造の前は、どんな状態でしたか？
3. 初めに創造されたものは何でしたか？
4. どのような方法で、つくられましたか？
5. なぜ、光と闇が分けられたと思いますか？
6. 私たちにとって、光と闇はそれぞれどのようなものですか？